

令和7年5月7日

令和6年度 岩手県立大学宮古短期大学部

「文理融合データサイエンス教育プログラム」自己点検・評価報告書

宮古短期大学部 教務委員会

令和4年度より、宮古短期大学部では「文理融合データサイエンス教育プログラム」を実施した。この教育プログラムの令和6年度の自己点検・評価結果は次のとおりである。

1. プログラムの履修・修得状況

本プログラムを構成する各科目では、学内の学務システム（Active Academy Advance）によって履修・修得状況を、授業支援システム（WebClass）によって受講者毎の課題提出状況を、出席管理システムによって授業の出席状況をそれぞれ把握することができる。令和6年度の実績は次のとおりである。

令和6年度にカリキュラム改定を行い、1年次の開講科目でプログラムの終了条件をすべて満足するようにプログラムを構成する科目の変更を行った。この結果、終了条件を満たした学生は新入生の63名（新入生の93%）、旧プログラムの2年生は再履修を含め5名が追加で終了要件を満たし75名（2年生の80%）がプログラムを終了している。新入生でプログラムを満たしていない学生においても1科目の不足となっており2年次で終了条件を満たすことが期待されている。

2. 学修成果

授業における評価方法が、課題の達成度、内容の理解に基づいている。また学生による授業調査における「授業の関心」「授業の満足度」の項目を分析することにより、学生自身による理解度の自己評価を把握することができる。これらを統合的に分析することにより、学修成果の把握を行う。

また、これらの結果を担当教員を中心に教員間で共有し、検証することで、本教育プログラムの評価・改善を行う。

3. 学生による授業調査等を通じた学生の内容の理解度

本教育プログラムを構成する授業科目について、学生による授業調査を実施している。調査における「授業後の関心」「授業の満足度」という項目を分析することにより、学生の内容の理解度を把握する。

令和6年度においては「授業後の関心」について、肯定的な評価となる4段階中上位2段階が平均で89%を占めている。また、「授業の満足度」については94%を占めている。このような情報を担当教員を中心にフィードバックすることで、学生の理解度を把握するとともに、理解度向上への改善につなげる。

4. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムは令和6年度に行われたカリキュラム改定に連動し1年次に開講される必須の4科目の取得を終了要件に変更を行った。この結果、1年次終了時に92.6%の学生が本プログラムの終了条件を満たし、従前の80%前後から飛躍的に向上させることができ、各科目間のつながりをより体系的に示すことができ、学生の関心度や学習意欲が高められたといえる。

令和7年度以降は、これらの状況を維持し、さらに履修率が向上するよう学内外への本プログラムの周知と、新入生への履修指導に努めていく。

5. 学外からの視点

・教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本短期大学部の卒業生の就職先は、金融・保険業、医療・福祉、製造業、建設業、情報通信業、卸・小売業、サービス業など、多業種にわたっており、卒業生には、AIをはじめとする最新技術を活用し、新たな価値やあらたな社会を創造することが求められている。

・産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

岩手県内の高等教育機関や地方公共団体、経済・産業団体からなる「いわて高等教育地域連携プラットフォーム」による、「高等教育人材の教育及び県内定着促進に関するアンケート調査」によれば、岩手県内の430事業所のうち、約7割の事業所が大学等高等教育機関（大学・短大・高専）に求める教育プログラムとして「数理・データサイエンス・AI・IT教育」をあげている。また、本学の設立団体である岩手県からは、AIをはじめとする第4次産業革命技術を活用し、新たな社会を創造し、岩手県の未来をけん引する人材の育成が求められている。このような社会的な要請に応えるべく、本プログラムの改善していく。

6. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

本プログラムを構成する「経営情報概論（1年前期）」ならびに「情報リテラシー（1年前期）」、「情報ネットワーク概論（1年前期）」、「情報社会論（1年後期）」において、数理・データサイエンス・AIを学ぶことについて、社会での実例等をまじえながら講義することで、「学ぶことの楽しさ」や「学ぶことの意義」の理解の向上に努めている。今後も学生による授業調査等を活用しながらプログラムの改善を続けていく。

7. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

「わかりやすい」授業の評価として、学生による授業調査「授業の難易度」を参考として取り上げると、令和6年度において「難易度」について、適切な評価となる5段階中中位3段階が平均で82%を占めており満足度の高いものとなっておりわかりやすい授業運営が行われてると推測される。今後とも学生による授業調査等を参考にしながら「分かりやすい」授業となるように改善に努めていく。

以上